

信じることほど難しいものはない

島根県 こうちようじ 弘長寺住職 もり た ゆう こう 森田裕光

今朝は信じることほど難しいものはないというお話です。

私が小学校五年生の時のことです。

担任の先生が教室に入るなり算数の問題を黒板に書き、「この問題が解けたら運動場で自由に遊んでもいい」と言いました。

クラス全員大喜びです。

確か三桁×三桁のかけ算の問題でした。

私は一番に先生の所へ答えを持って行きましたが、×マークをもらいました。

検算をしたのですが、間違っている箇所が見当たりません。

クラス全員が答えを持って行きましたが、全員×マークでした。

足したり引いたり、何回答えを持って行っても×なのです。結局、誰一人運動場で遊ぶことはできず、算数の時間はとうとう終わってしまいました。

授業の最後に先生から

「今君たちが最初に持ってきた答えは、全部正解だったよ。なのに君たちは『僕たちの答えは正しい、先生の方がおかしい』って何故言えないんだ。」と叱られました。

私はその時「それはないよ、だって先生は絶対だと信じていたのに」と思いました。

この時の衝撃は大きく、いまだにその時の事を鮮明に覚えています。

正しいと思ったらその思いを通すべきだということ、そして何事にも、誰に対しても安易に信じ切ってはいけないこの二つのことを同時に学びました。